

前回（第1回）の主な御質問・御意見への回答・対応（案）について
 【反映区分 A…反映 B…反映に向けて検討・議論 C…その他（質問に対する回答等）】

1 次期総合計画関係

No	御質問／御意見	回答／対応（案）	反映区分
1	「幸福」をキーワードにした経緯について伺う。	<p>県では、東日本大震災津波復興基本方針における原則の一つとして、「一人ひとりの幸福追求権の保障」を盛り込み、取組を進めてきたところですが、大震災津波からの復興の中で培ってきた取組や考え方を、次の10年間で全県に広げるといった考えのもと次期総合計画を策定するとしたことが背景の一つとなっております。</p> <p>また、幸福について専門的な議論の積み上げの中で、単なる概念的なものではなく、具体的な取組まで落とし込むことが可能であることを、岩手の幸福に関する指標研究会から報告いただいております。</p> <p>幸福については観念的な話でありますので、県の総合計画の中に位置づけることについては、さまざまな場面、機会を通じて、説明していくこととしております。</p>	C

2 岩手県教育振興計画（仮称）の位置付けについて

No	御質問／御意見	回答／対応（案）	反映区分
2	教育振興計画が長期ビジョンとアクションプランの中間に位置するという考えについて、中間に位置するというより、長期ビジョンとアクションプランを教育分野で具体化しようとしているのが新しい教育振興計画なのではないのか。	<p>長期ビジョンの中に教育分野の項目も入っており、その長期的な目指すべき姿、方向性のもとに、アクションプランの策定が進められる予定ですが、アクションプランは10年間分を一気に策定するのではなく、平成30年度には第1期アクションプランとして、平成31年度からの最初の4年間を定める予定です。</p> <p>これに対し、教育振興計画は長期ビジョンをもとに教育分野における10年間の長期的・具体的な取組について検討しようというものです。</p> <p>長期ビジョンを踏まえた教育振興計画をさらに具体化するものとしてアクションプランを策定していくという意味から、中間的な性格という説明をしましたが、教育分野の取組をアクションプランに具体的に落とし込んでいくという意味では、ご指摘のとおりと考えております。</p>	A

	御質問／御意見	回答／対応（案）	反映区分
3	<p>アクションプランの期間は4年程度であるが、教育分野は他部局と異なり成果が出るまでに、ある程度の時間がかかることから、4年間の目標を定めて評価するのはなじまないと感じるがどうか。</p>	<p>教育は、息の長い取組が必要ということもあり、これまでの「岩手の教育振興」では10年間を計画期間として取組を進めてきました。</p> <p>今後、策定を進める教育振興計画につきましても、10年間を計画期間として具体的な取組や目標を定めたいと、その考えをもとに、4年間のアクションプランに落とし込んでいくことが必要と考えております。</p>	A
4	<p>今回策定する教育振興計画そのものが教育基本法第17条第2項に規定する岩手県教育振興基本計画に位置づけられると理解してよろしいか。</p>	<p>これまでは、総合計画の「長期ビジョン」及び「アクションプラン」を教育基本法に規定する教育振興基本計画に位置づけておりましたが、これまでの「長期ビジョン」及び「アクションプラン」に加え、今回策定する「岩手県教育振興計画」を合わせた3つを教育振興「基本計画」として位置付けたいと考えております。</p>	C
5	<p>教育と同じくスポーツも法律により基本計画をつくることとされているが、岩手県では総合計画を位置づけている。逆に言えば、よって立つところがぼけてしまうことから、きちんとした教育振興基本計画というものは持っておくべきだと考えている。</p>	<p>今回策定しようとしている「岩手県教育振興計画」については、次期総合計画（長期ビジョン及びアクションプラン）と合わせ教育基本法に規定する「教育振興基本計画」として位置付ける予定としております。</p>	A
6	<p>あくまでも県の総合計画があり、それを具体化するための教育振興基本計画が存在し、さらに長期ビジョンとを踏まえたアクションプランで具体化する部分が今回議論する県の教育振興計画（仮称）の部分であり、これが教育基本法第17条で各自治体が定める教育振興基本計画にほぼ該当し得るものという整理の方が分かりやすいのではないか。</p>	<p>次期総合計画長期ビジョン及びアクションプランと、岩手県教育振興計画（仮称）の関係等については、別添資料のとおり整理のうえ説明することとします。</p>	A

3 岩手県教育振興計画（仮称）の構成について

No	御質問／御意見	回答／対応（案）	反映区分
7	<p>数値目標や取組の優先順位なども明確にさせていただいたほうが、審議する上でも理解しやすく、また時間的効率も良いのではないか。</p>	<p>数値目標等につきましては、個別の施策の取組をご審議いただく際に提示できるようにします。</p>	A
8	<p>教育振興計画と教育分野毎の具体的な推進プランとの関係について、具体的なアクションは推進プランでやっていくということであれば、教育振興計画の記載は理念的あるいは抽象的なほうが良いのではないか。</p>	<p>教育振興計画では、今後10年を見据えながら具体的なビジョンやビジョンを実現するための取組方向、取組工程を示したいと考えております。</p> <p>具体的な取組内容の詳細については、各分野で策定する個別計画で整理していくこととなりますが、教育振興計画に具体的に記載した方が、関連性が分かりやすい場合もありますので、個別計画との整合性や、計画全体のバランスを見極めながら検討を進めて参ります。</p>	B
9	<p>現状分析があり、そこから課題を抽出し、課題に対応するために目指す姿を出し、それを具体的に実現するための取組という流れが本来の姿だと考えている。</p> <p>あらかじめ目指す姿が設定された場合は、すごく抽象度が高くなるが、具体的な目指す姿というのは、現状と課題を踏まえて出てきたほうが本来なのではないか。</p>	<p>教育振興計画は、10年間の長期計画となりますが、現状、課題、社会情勢等を踏まえつつ目指す姿、取組方向を検討していただく予定です。</p>	A
10	<p>全体の計画は様々な分野に関わるので、一つに区切って縦割りで行き過ぎるというのもよくない。そういう意味では役割などの全体が見えるようにうまく構成してほしい。</p>	<p>次期総合計画では、これまでの政策領域毎の柱立てから、幸福領域による柱立てに変更することとしており、その中で様々な政策領域に関わる横断的な内容に整理されていくものと考えております。</p> <p>教育振興計画は、教育分野における主に教育委員会が所管する領域の行政計画の位置づけでもありますが、県民の皆さんにとっても分かりやすい計画になるよう、教育分野が横断的に関わる内容についても出来るだけ整理して記載していきたいと考えています。</p>	A

No	御質問／御意見	回答／対応（案）	反映区分
11	<p>岩手県には短大とか大学もあるが今回の議論の対象となるのか。</p>	<p>現在の総合計画では高等教育は政策地域部の所管という位置づけになっております。一方、高等学校と高等教育の接続の課題など、関係する部分については、教育振興計画の中で整理していく必要があると考えております。</p>	C
12	<p>特別支援教育については、教育振興計画とは別に、詳細なプランが教育委員会で策定されており教育振興計画では理念的な内容とした方が良いという意見もあったが、教育振興計画の策定に合わせて、教育委員会が策定する各教育分野の諸計画・プランについても策定するのか。</p>	<p>施策体系としては、次期総合計画及び教育振興計画のほか、義務教育、高校教育、キャリア教育、特別支援等々の個別の計画を策定する予定です。</p> <p>教育振興計画では、教育分野について総合計画より具体的に記載する予定であります。個別計画では、さらに詳細な取組について盛り込む予定としております。</p>	C

4 施策の柱立てについて

No	御質問／御意見	回答／対応（案）	反映区分
13	学校そのものに行けない子ども達がたくさんいるという現状がある。子どもの学ぶ権利がどこで保障されているのかとか、そういう問題について今考えていかなければならない時期にきている。	柱立ての項目に、いじめ、不登校についての柱立てを設けることとしてはどうでしょうか。 また、多様なニーズに対応した教育機会の提供や貧困対策等については、「学びの基盤づくり」の項目の中で記載することとしてはどうでしょうか。 なお、教育委員会の施策体系のなかでは教育振興計画のほかに、教育分野毎の諸計画もありますので、こうした諸計画や今後項目毎の現状や課題、具体的な取組内容を検討するなかで、いただいた御意見を踏まえながら議論を進めさせていただきたいと考えています。	B
14	不登校、発達障がい、人との関係が結べない子ども達が増えている現状で、豊かな心に位置付けていることとマッチするのか。		B
15	多様なニーズに対応する教育機会の提供とあり、これが学ぶ権利に関係してくると思うが、この辺の柱立てをもう少し整理してほしい。		A
16	貧困世帯では親の教育力が不足しており、その子達も負のスパイラルのようにそういった循環に組み込まれていく現状がある。		B
17	特別支援学校にも入れない子ども達、グレーゾーンにいる子ども達も多くおり、どのように位置づけていくのか		B
18	私立学校の特色ある教育活動の推進について、心の育成と学力の定着で同じ記載となっているが、違いがわかるような内容にしたほうが良いのではないか。	これまでの計画（「いわての教育振興」）では、私立学校に関する記述は「学力の向上」「豊かな心の育成」の項目に盛り込んでいましたので、たたき台では同様とさせていただきました。 御意見や長期ビジョンにおける私立学校に関する位置づけを踏まえ、計画における整理の仕方、記載内容等については検討していくことします。	B

No	御質問／御意見	回答／対応（案）	反映区分
19	たたき台にある項目の記載順番は重要度の順番を意味しているのか。	重要度を意識して項目分けをしたということではありません。 知、徳、体を総合的に育むことが学校教育の一番のポイントと考えているが、ふるさと振興や地元への定着等、教育をめぐる新しい課題への対応を最初に持ってきております。 また、学校教育、社会教育と大きく分け、さらに教育環境の確保ということで教員の多忙化解消のような教育のベースを支える施策を最後に盛り込みました。	C
20	特別支援学校には、病気と闘いながら、日々を豊かに暮らしている子ども達がいるが、その子ども達に健やかな体ということを総論的に言ってしまうと、排除の論理が働きかねないような総論だということ。心と体を分けて書くとすると、「健やかな」に置きかわるようなプラスイメージの言葉、生き生きとした体とか、何かそのような言葉を少し提案できれば良いなと思いました。	今後、本審議会等において議論をいただきたいと考えております。	B
21	教育課程の編成は各学校で校長が行うものであることから、本計画では編成というより教育課程の推進と記載したほうが良いのではないか。	今後、本審議会にて予定している項目毎の現状や課題、具体的な取組内容を検討する際の参考とさせていただきます。	B
22	学ぶ意欲を高めるのみならず、活用力を高めるという授業改善の方向性こそが岩手では一番求められているのではないか。	今後、本審議会にて予定している項目毎の現状や課題、具体的な取組内容を検討する際の参考とさせていただきます。	B
23	学校教育を中心にきちっといくのか、生涯学習的なところをどの程度担っていく計画にするのかというのが分かりづらく、中途半端に生涯学習における地域との関係が出てきていると感じた。	学校教育と社会教育という2つの大きな柱があり、現状の計画なども参考にしながらグルーピングをしていくと、こういった柱立てになっているということで、たたき台を作成しました。 社会教育分野をほとんど生涯学習という言葉で一くくりにしているが、どのように区分したら良いか本審議会において議論していただきたいと考えております。	B

No	御質問／御意見	回答／対応（案）	反映区分
24	部活動について、芸術部分についても吹奏楽部や合唱部など体を鍛える部活動もあり、運動部活動という捉え方に限定しない方が良いのではないか。	今後、本審議会で予定している項目毎の現状や課題、具体的な取組内容を検討する際の参考とさせていただきます。	B
25	優秀な教員は現場にたくさんいるが、何をもって優秀とするかというところがあると思います。ここでは優秀という言葉ではなく、教育の現場で必要とされるといふ文言のほうが良いのではないか。	今後、本審議会で予定している項目毎の現状や課題、具体的な取組内容を検討する際の参考とさせていただきます。	B